

活動レポート

倫理委員会

文責：倫理委員会幹事 今井淳一

平成 25 年度 第 2 回 研究 WG 活動報告

はじめに

倫理委員会では、2013 年 6 月 18 日(火)に平成 25 年度第 2 回研究 WG を出席会員 19 名でドーコン新札幌ビル会議室において開催いたしました。

1. 新規会員の紹介

今回の定例会より土橋美奈子氏が新たに会員となり、自己紹介が行われました。

2. 第 4 回技術者倫理フォーラムの報告

5 月 22 日に行われた第 4 回技術者倫理フォーラムの参加人数及び費用の報告、その後、平成 26 年度の第 5 回フォーラムについての開催時期及び会場について概要が説明されました。

3. ミニ講演会(富澤委員)

今年度より研究 WG は、新たな「事例研究」として、各委員から色々な課題について「ミニ講演」と出席者間で講演内容についてディスカッションをしながら、技術者倫理との関係について深めていくことになり、その第 1 回目として富澤委員より『～生命倫理～として、1. 宗教的倫理 2. トリアージ』と

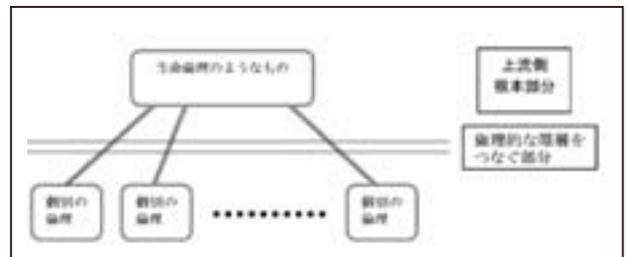


題した講演が行われました。

フリーディスカッションでは、「生命倫理と宗教的倫理」そして、「技術者倫理」との関係について、非常に多くの意見や考え方が出されました。そこで、ここでは色々な意見を再度整理するとともに、講演者の富澤委員からの意見に関するアンサーを要約したものを報告いたします。

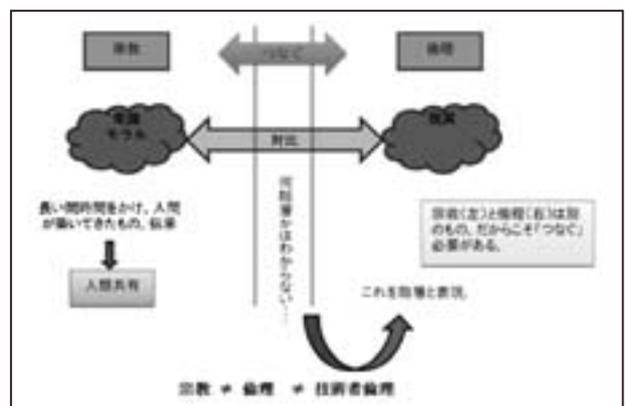
①意見集約 1

人間社会では「絶対的なもの」はない。時代とともに考え方は変化していく → 倫理は時代とともに変わる。もっと上流側の方で「生命倫理」のような議論が行われるのではないか。



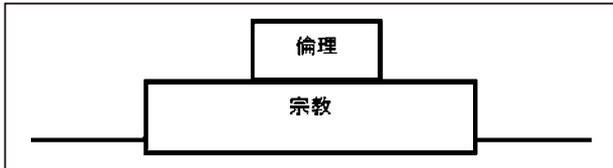
②意見集約 2

階層の違うところをどうやって繋ぐのが課題で、宗教という言葉は使えず常識というようなものがベース。宗教と技術者倫理は一線を画すものである。



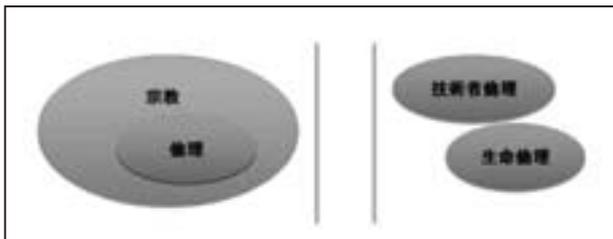
③意見集約 3

個人の倫理観は宗教観や価値観に影響を受け、また、時代の変化とともに倫理観が変わっていく。宗教と倫理の間に一線を画す必要があるかどうかは、よく判らない。宗教(黄金律)というベースの上に倫理がある。



④意見集約 4

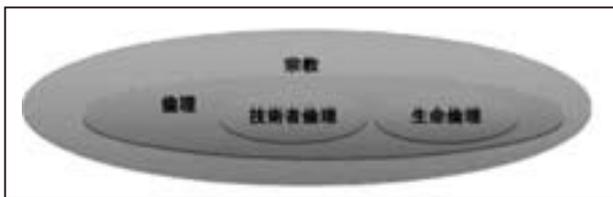
技術者倫理はいわゆる職業を遂行するうえでの約束事、行動規範である。だからこそ、倫理と技術者倫理、生命倫理のようなものは別けて考えた方が良くと思う。宗教の中に倫理がある。その横に並行して、技術者倫理や専門倫理がある。



宗教 ⊃ 倫理 ≠ 技術者倫理

⑤意見集約 5

倫理は、宗教(黄金律)をベースとしているが、倫理の中に各個別の倫理=技術者倫理、生命倫理など(応用倫理)が含まれるとした考えの方。



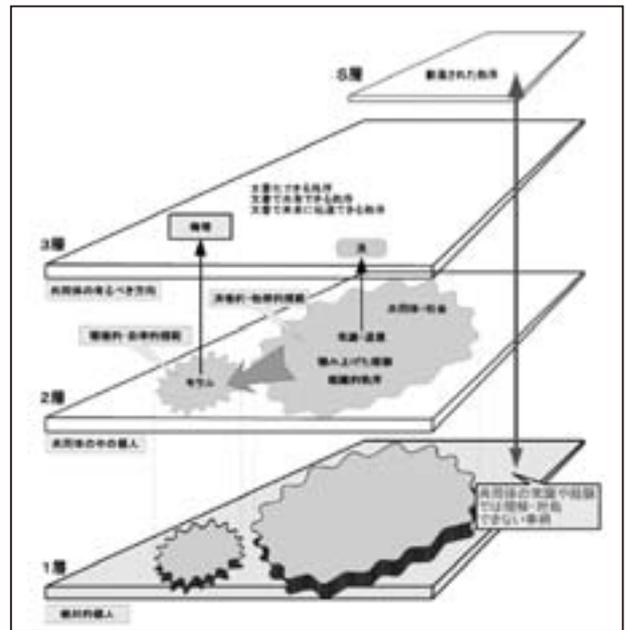
宗教 ⊃ 倫理 ⊃ 技術者倫理

以上、意見を受け、小野委員及び講演者の富澤委員より再度、考え方についての提言があった。

⑥小野委員の考え方(再整理結果)

再度整理してみました。常日頃は第2層と3層を問題にしているわけですが、「宗教」という命題を与えられて第1層を加えるに至りました。第2層は共同体としての社会の中で積み上げられてきた成

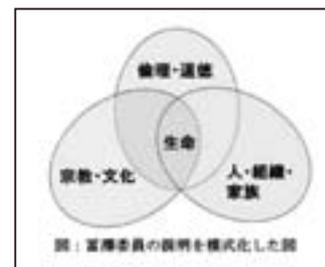
果であり文化であるともいえます。それを他律的なものと自律的なものに分けて捉え、自律的なものをより普遍化し文書化して可視化し、伝達・継承が容易な形に昇華しつつあるのが倫理という捉え方です。ちなみに「法」は常識の延長という捉え方です。



宗教 ≠ 倫理 ⊃ 技術者倫理

⑦富澤委員の意見(再整理結果)

自分としては、今のところ A「正しい選択の導き ≡ 倫理・道徳」・ B「観念・人間学 ≡ 宗教・文化」・ C「現世の実生活 ≡ 組織・家族」の全ては〈生命〉を共有すると解釈しました。逆に言えば、生命があっからこそ A・B・C がある。多少幼稚かもしれませんが、生きているからこそ考えることができ、議論ができ、悩むことも共感できると思っています。また生命を守る=正しい生き方のために、A・B・C があるとも言えます。宗教のみを取り上げた議論にはしたくなかったのですが、舌足らずで申し訳なく思っております。



図：富澤委員の提言を構式化した図

委員会の中での見解を要約しました。皆さんからのご意見をお待ちしています。